



(1面からのつづき)

しかし、今予測のついていることは、建築士法改正による建築士に対する罰則の強化、設計の専門分化が進んだ事による構造設計一級建築士・設備設計一級建築士の新設、そして構造設計規定の大規模な見直しと強化です。

さらには、今までの建築確認の構造設計チェックは、確認審査機関のみでしたが、新たに、一定規模以上の構造設計は、構造士でなくてはならなくなり、それをさらに、構造士がチェックする「構造計算適合判定制度」が新設されます。

「構造計算適合判定制度」の判定員は、構造士等が割り当てられる予定だそうです。

私の個人的意見を述べさせていただけるなら、法律を強化すれば偽装が無くなるとは思えません。建築界の根本に、そのようにならざるを得ない背景が、何かあるのではないかと思います。

また、技術の世界をあまり制約することは、技術の進歩を妨げる事になりはしないか? そして、構造設計を行うには、一級建築士と建築構造士と二重のハードルを越えなければならず、その割には、経済的にも満たされず、社会的地位も確立されない。となると、これから構造設計を夢見る若者がいなくなるのでは。と、懸念されます。また、構造士が構造士をチェックするという事は、何のための資格なのか、理解出来ないところもあります。

しかし、この制度によって、社会が構造の重要性を理解し、構造設計者が社会の信頼を高めることが出来れば、意義があることだと思います。

この「構造計算適合判定制度」につきましては、後ほど、千葉県よりもお話があると思いますが、

制度の立ち上げは、JSCA・千葉の構造士が協力する事が不可欠です。今回、JSCA・千葉で判定員として手を挙げていただいた方は40名程おります。人数は少ないようですが、会員の割合からしますと、全国トップクラスです。他に千葉に在住の方の協力を得ますと、倍の人数となり、千葉県で必要な構造計算適合判定員は、確保できるのではないかと思います。

昨年は、構造計算偽装事件の影響による市民の不安をなくするため、JSCA・千葉は、建築士会・建築家協会と協力の上、無料相談を行いました。また、マンションデベロッパー・管理組合からの依頼により、構造計算の妥当性のチェック(構造レビュー

会員委員会定期便

<JSCA千葉 平成19年度定期総会のお知らせ>

日時:平成19年5月31日(木) / 場所:三井サンガーデンホテル千葉 / プログラム:13:30~定期総会 / 15:00~記念講演会「最近の建築溶接の話題」講師:千葉大学工学部 森田耕次 名誉教授

<在住・在職会員入会のお知らせ>

今期20名以上の入会者があります。総会資料をご覧ください。 会員委員会(明智・斎藤(利)・鈴木)



斎藤代表の年頭挨拶

一)等、皆様にたくさんの方の協力をいただき、大変感謝いたしております。また、これによって、建築関連団体、JSCA・千葉会員の結束力のすばらしさを確認させていただきました。

そして、この構造レビューの取りまとめに際しては、「千葉県耐震判定協

議会」に、特にご尽力いただきました。ここが無ければ、とても出来る事ではなかったと思います。皆様にあらためて、お礼申し上げます。

この度の「構造計算適合判定制度」は、千葉県の行政とJSCA・千葉そして、千葉県耐震判定協議会にも加わっていただきますが、それぞれが互いに協力しあわなければ成功しません。皆様の今までの協力体制・結束力を持てば必ず成功するものと、確信します。どうぞ、ご協力よろしくお願い申し上げます。

さて、固い話しとなりましたが、本日は後ほど楽しい催し物があるようです。構造設計の皆さんは、今大変な時期であり、少し自粛が必要と思われるかもしれませんが、JSCA・千葉の会員は何も悪い事をしたわけではなく、かえって偽装事件により、昨年は大変忙しく、また、これからは法改正により、適合判定員、法改正の勉強など、忙しい毎日になっていきます。

そこで、元気付けにはもってこいの趣向(Jazz演奏)だと思います。短時間ですが、皆様とともに、楽しみたいと思います。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝を祈念して挨拶とさせていただきます。

JSCA・千葉 代表 斎藤美佐男

JSCA・千葉 / 第10回新年会開催

去る平成19年2月9日(金)三井ガーデンホテル千葉において、JSCA・千葉の新年会が開催されました。司会の向後副代表の進行のもと、斎藤代表の新年のご挨拶とともに、昨年来続いている耐震強度偽装事件への対応、また、新たに設けられた「構造計算適合性判定」に向けての、JSCA千葉の対応について、説明と参加の呼びかけがありました。さらに、今後の活動において、行政・関連団体の皆様のこれまで以上のご支援、ご協力をお願いご挨拶を終えました。

参加者も80名を超え、行政・関連団体の皆様にも、多数ご挨拶をいただきました。皆様の建築構造に対する関心の高さを拝聴し、改めて健全な社会資本としての建築物の品質確保と向上を目指し、責任の重さと皆様の期待をJSCAメンバーが再認識し、JSCA千葉十年目のスタートをしたしだいでありました。



新年会の後半は、「菊池 昇クインテット」によるJAZZのスタンダードナンバーの生演奏を聞きながら歓談し、最後に園部副代表の音頭で3本締にて新年会の終了となりました。

(佐藤)

JSCA千葉・ホームページ委員会からの報告

平成18年7月の役員会におきましてJSCA千葉のホームページを作成することが決定致しました。

担当者として5名の方が選任されまして、まず企画会社の選定を行い(株)ジーシー企画に依頼する事に決まり、その後ホームページ委員会での打合せを重ねてまいりましたが、いよいよ皆

構造メモー改正建築基準法

6月20日に改正建築基準法が施行されますが、どれだけの人が待ち望んでおられるのでしょうか。私は憂鬱であります。還暦を迎えましたが、もう少し現役でいようと考えていますが、改正案の法文を読んでどう変わるかを理解しようとする事自体が簡単ではなくなっていますので、建築雑誌等でわかりやすい解説付きのものが出るのを心待ちにしています。

(1) 対称建物は以下のようです

- ・木造 — 高さ13mまたは軒の高さが9mを超える
- ・鉄骨造 — 地階を除く階数が4以上
- ・RC造・SRC造 — 高さが20mを超える

(2) 構造計算の方法が告示化されるものがあります。

①構造計算に用いる数値の設定

イ. 開口部を設けた耐力壁・耐力壁のせん断耐力に $r2 = 1 - \max(ro, Lo/L, ho/h)$ を乗じる。

これまで「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(日本建築学会)に示されていたものにho/hの数値が加わりました。

②構造耐力上主要な部分に生じる力の計算方法

イ. 許容応力度等計算・耐力壁の負担せん断力が階全体の1/2を超える場合、耐力壁付き柱以外の柱は、常時荷重に層せん断力係数を乗じた値の0.25以上のせん断力を作用させ、常時荷重時応力を加えて構造計算を行う。・その階の常時荷重の20%以上を支持する隅柱は、地震応力に1.25を乗じて構造計算を行うか、桁行方向張り間方向以外の方向に水平力を作用させた構造計算を行う。・片持ちのバルコニー等は、地震力に対しては鉛直震度1.0以上を乗じて構造計算を行う。

ロ. 保有水平耐力計算

・基礎回転しないとして、「全体崩壊形」「部分崩壊形」「局部崩壊形」のいずれかの崩壊形とする。

・せん断破壊等による急激な耐力低下が生じない事を確かめる。

RC造 — $Qb = \{ 0.068 \cdot Pt^{0.23} \cdot (Fc+18) / \dots \} \cdot b \cdot j \geq Qo + \alpha \cdot QM$

③その他イ. 架構の幅に対する高さの比(アスペクト比)が4を超える場合の計算

・標準層せん断力係数を0.3以上として計算した層せん断力か、保有水平耐力に相当する層せん断力のいずれかが作用するとして地盤又は基礎杭に生じる力を計算し、それぞれの極限支持力等を超えない事を確かめる。

(西澤)

様にご披露できるようになりました。

6月から公開の予定ですのでご覧になって頂いて多くのご意見・ご質問をお待ちしております。今後は随時バージョンアップを図り、より充実したものにして行きたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

(加藤)